

クビアカツヤカミキリ防除対策 モモ・ウメ用

- ・**クビアカツヤカミキリ**は、モモやウメ、サクラなどバラ科樹木の害虫で、幼虫が樹の内部を食い荒らし、やがて枯らしてしまいます。
- ・本県では、平成27年7月に板野町で初めて確認され、現在では鳴門市、藍住町、板野町、上板町、阿波市で確認されています。
- ・本虫は**特定外来生物**で、飼育や生きたままの運搬、譲渡は禁止されています。

クビアカツヤカミキリとは、

● 成 虫

- ・ 体長は2.5～4cm程度で、全体が光沢のある黒色をし、胸部が赤く突起状です。
- ・ 本県では例年、6月下旬から8月上旬に成虫が発生し、発生ピークは7月上旬です。
- ・ 雌は樹幹や太い枝の裂け目などに、乳白色でゴマ粒大の卵を産みます(下図)。

● 幼 虫

- ・ 乳白色のイモムシ状で、ふ化した後に樹の中で2年かけて成長します。
- ・ 若齢の時は樹皮下を、成長に伴い形成層、木部へと内部に食い進んでいきます。
- ・ モモ、ウメ、サクラ、スモモ、サクランボ、アンズ、アーモンド等のバラ科の核果類を食害します。



クビアカツヤカミキリ成虫

※ 雄の触覚は、体長の2倍程度で雌と区別するポイント。



クビアカツヤカミキリ幼虫



卵は約10日でふ化



卵はUVライトを当てると光り、観察しやすい (春山 2024 植物防疫)

樹皮の隙間に産卵された卵(左)とUVライトで光る卵(右)

※本資料の内容の一部は、イノベーション創出強化研究推進事業「(30023C)サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発」及び「(04015C1)相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立」による研究成果をもとに作成しています。

※本資料は、令和7年度消費・安全対策交付金「クビアカツヤカミキリの防除対策等の実証」事業により作成しています。

発行: 令和8年2月 徳島県立農林水産総合技術支援センター

◆ 防除体系モデル ◆

作業項目等		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
防除対策	被害樹の伐採・抜根												
	幼虫刺殺												
	成虫補殺												
	薬剤散布（幼虫対象）												
	薬剤散布（成虫対象）												
	ネット等の被覆												
クビアカツヤカミキリの生育(概略)	1年目												
	2年目												
	3年目												

※ ■ の時期にそれぞれの対策を実施してください。

① 成虫の対策 被害の拡大を防ぐ！

- ✓ 発生時期となる6月下旬から園地内をよく見回り、発見次第**捕殺**します。幹にいることが多いですが、晴天時は動きが活発になり、樹冠内にも移動します。
- ✓ 以下の**登録農薬**を、成虫発生期に散布します。樹冠には成虫が、幹や太い枝には卵や幼虫がいるため、意識して散布しましょう。

農薬の名称	RACコード	適用作物	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	4A	もも、うめ	2,000倍	収穫前日まで	散布	3回以内
アクタラ顆粒水溶剤	4A	もも	2,000倍	収穫前日まで	散布	3回以内
		うめ		収穫7日前まで		2回以内
アクセルフロアブル	22B	もも	1,000倍	収穫前日まで	散布	2回以内
		うめ				3回以内
		もも	100~200倍	収穫前日まで	樹幹散布	2回以内
テッパン液剤	28	もも、うめ	2,000倍	収穫前日まで	散布	2回以内

※令和8年2月現在

② 幼虫の対策 今ある樹を守る！

- ✓ フラスが排出される時期に、排出口からドライバーなどで樹皮を剥がしながら食入孔を探り、幼虫を見つけたら千枚通しなどで刺殺します。
- ✓ 樹皮を剥がした部分には保護資材を塗布します。
- ✓ 食入孔を探しても幼虫が発見できないときは、エアゾール剤(ロビンフッド)を用い、



幼虫の刺殺



エアゾール剤の樹幹内噴射

薬液を噴射しながら食入孔のできるだけ奥までノズルを差し込みます。

③ ネット等の被覆 成虫の脱出と新たな産卵、両方防ぐ！

準備作業

○用意する物

1. 被覆資材

幅1m程度の**防虫ネット**または**防草シート**

以下の資材は、成虫の脱出及び産卵を防止する効果が高い事を確認しました

- ・サンサンネットソフライトSL3303
- ・アグリシートシャインホワイトSW1515
(どちらも日本ワイドクロス(株)製)

2. 資材固定、調整用具

裁ちばさみ、のこぎり、剪定ばさみ、ガンタッカー、テープ(またはマイカ線等の紐)、地際固定用の杭

○資材調整



1. 資材は縦に二つ折りして二重にします。*
2. 長さ10m程度で丸めておきます。

*未被害樹に被覆する場合は、幅50cmの資材で、一重で被覆しても可。

○被覆方法

1. 作業に邪魔なひこばえや枝は剪定しておきます。
2. 作業は**二人以上**で資材を受け渡しながらか被覆します。木の下部より、上方へらせん状に巻き付けます。
3. テープまたはマイカ線等の紐で巻き付けた資材を固定します。資材の隙間はガンタッカーで留めます。
4. 地際は杭で留めるか、土を被せてめくれないようにします。
5. 定期的に見回り、隙間ができていたら補修します。



動画で解説！



④ 被害樹の処分 放置すると多数の成虫が飛散...

- ✓ 食害を受けた樹木は、**伐採・抜根**します。
- ✓ 伐採した幹や枝は、園地に放置せず、チップパーで幅1cm以下に裁断する等、樹内の幼虫等を殺してから処分します。
- ✓ 抜根ができないときは、切株を厚手のシート等で被覆します。



抜根できない場合は、左のように地際で切断し、シート等で被覆する。

※一つの防除対策だけでは不十分なので、組み合わせて実施することが重要です。

※防除に関するお問い合わせは県病害虫防除所(088-674-1954) または管轄の農業支援センター(上板、板野、鳴門:088-692-2515、阿波市:0883-26-3971)まで。

● 被害の特徴

- ✓ 成虫は、樹液や傷んだモモの果汁などを食べますが、葉や樹を食害することはありません。
- ✓ 幼虫は、5月から10月に樹内を摂食しながらせん孔します。その際に**フラス**(フン、木くず等が混じったもの)を大量に排出し、それが被害の目印となります。



傷んだ果実を摂食中の成虫



幼虫によるモモの被害樹



多数孔より排出



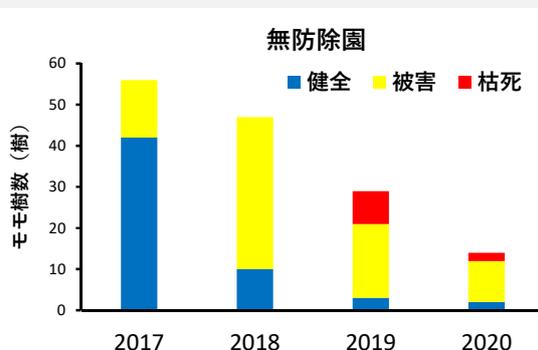
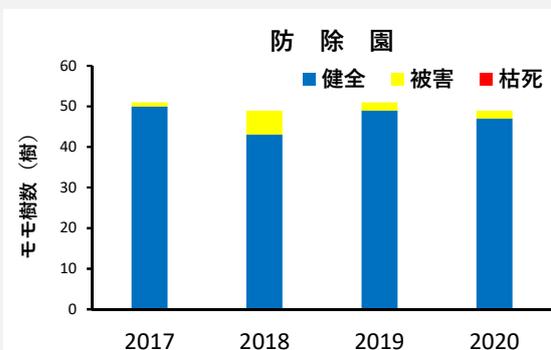
形状の異なるフラス

モモの被害は産地全体に広がっています。

- ✓ 被害は、初確認の2015年以降、産地全体で増加傾向にあります(右図)。
- ✓ 被害の程度は、防除実施の有無に左右され、無防除では数年で被害・枯死樹が増え、生産が困難となります(下図)。
- ✓ 侵入後は急速に被害が拡大するため、予防や初期防除が重要です。



県北東部のモモ産地における被害園の発生推移



管理方法の異なるモモ園での被害発生状況



防除対策の詳細は
見開きページ参照

◆ クビアカツヤカミキリに関するお問合せは ◆

◆モモ・ウメなど農作物に関すること 県病害虫防除所:088-674-1954

◆サクラなど街路樹・庭木に関すること サステナブル社会推進課:088-621-2261